

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106092		
法人名	医療法人社団 三樹会		
事業所名	グループホームきびの里		
所在地	岡山市北区庭瀬149-1		
自己評価作成日	平成30年10月22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の特性を活かし、医療との連携を行っている。受診支援・医師の往診・正看護師の配置など、利用者の体調の変化に素早く対応出来る体制をとっている。また地域の町内会に加入して老人クラブや子供会との交流を図っており、また地域にある短大・大学からも体験学習・ボランティアの受け入れなどを積極的に行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106092-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であることは、利用者や家族にとっては医療・健康面における心の拠りどころであり、安心の提供に繋がっている。ボランティアや近隣の方々、学校関係の方などが訪れる機会も多く、長い間に培われた地域との自然な交流が継続されている。勤務年数の長い職員が多く、職員間の人間関係は良好である。職員の年齢層は幅広く、男性職員の割合が多い。法人の人事考課に沿った面接が年2回行われており、意欲をもって働く職員への配慮を感じる。利用者は穏やかで、それぞれのペースでゆったりと過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成30年10月30日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「信頼」という法人の理念を玄関や事務所に掲示し、毎日の朝礼時に職員で唱和を行い意識の向上に努めている。	法人の基本理念「信頼」に添った、事業所の特性に合った日々の支援がなされている。理念は職員の目に付くところに掲示し、機会を捉えては意識の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しており、溝掃除や公園の草取りなどに参加し、町内会総会などへも参加している。事業所の夏祭りへは近隣の方へ声をかけ、老人クラブや子ども会の方達も参加して下さっている。	書道教室や唄の会、アコーディオンの会、大正琴などとボランティアの訪問が多く、定着している。近くの大学からの実習の受け入れもあり、地域との交流が日常的に図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にある短大・大学からの体験学習・ボランティアの受け入れなどを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者やご家族の代表にも出席して頂き、現在の取り組みを報告のほか、参加メンバーからいただいた意見や提案をホームで話し合い、サービスの向上に努めている。	地域の方や利用者、家族の方、地域包括支援センター職員、他事業所の方などが参加している。各方面からの情報交換の場となっており、支援への反映に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員または地域包括支援センター職員に運営推進会議へ参加して頂き、介護サービス上での相談などにも応じて頂いている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加しており、事業所へのアドバイスや情報提供を受けている。市との連携が図られ、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者が外へ行きたい時には付添にて対応するよう努めている。身体拘束防止に関するマニュアルを用意し、事業所内で勉強会を実施して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止のマニュアルを作成し、勉強会を開いて職員間の理解と情報の共有を図っており、日頃の支援の中でその都度話し合っている。現在身体拘束の該当者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関するマニュアルを用意し、事業所内で勉強会を実施して虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中には成年後見人制度を活用した方もおられ、必要な時には書類作成などにおいて、協力・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に時間を取り、丁寧に説明をしている。改訂については家族会や面会時に説明し、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族会を開催して意見交換を図っている。面会時にも意見や要望を伺い、それを基にしてホーム内で話し合い、反映させている。	来訪時や家族会参加時などに意見や要望を尋ねている。また担当職員がこまめに連絡を取り、家族の思いに寄り添えるように心がけている。ミーティングで話し合い、その反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より管理者やリーダーと職員との意見交換を行い、ミーティングや朝礼にて伝達し、必要時には申し送りノートへ記載して周知を図っている。また年2回、人事考課のフィードバック面接を行い職員の意見を聞くようにしている。	毎月のユニットミーティングや日々の話し合いで、活発な意見交換ができています。年2回の面接は職員の意見の汲み上げと、意欲的に取り組んでいる職員にプラスをとの法人の思いが反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるように働きかけている。また、能力給を導入し、努力が処遇に反映できる制度となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を随時提示し、職員が選んで研修を受けている。法人内の勉強会にも参加しており、事業所内での勉強会は様々なテーマを挙げて、それぞれ担当を決めて取り組むよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議へ地域の同業者に参加して頂き、相互の情報交換を行っている。また、お互いの行事に参加させていただくなど、交流する機会づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご利用者の状態を理解し、より信頼関係を構築しやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に時間を取り、ゆっくり話を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時にじっくり話を聞き、ニーズを把握して、確認するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、得意な事を勧めつつ、時には一緒にいたり、職員の知らない事であれば教えて頂くことで、共に支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は何時でも自由とし、自室でもホールでもゆっくり話していただけるよう配慮している。面会時には最近のご様子を伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に愛用されていた物の持ち込みを勧めている。また、外出・外泊はいつでも歓迎している。	家族や知人が訪問しやすい環境作りに努めている。書道の得意な方にはギャラリーを設置したりと、その方が大切にしてきたものや人との関係継続に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・お茶・レクリエーション等、皆で楽しく過ごす時間を持つようにしている。また、職員が調整役となり利用者同士の関係が円滑になるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院により利用が終了した場合は、職員や他の利用者がお見舞いに行く等の対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員ごとに担当するご利用者を定めて、日々の関わりの中で傾聴を心掛けている。またご家族との意見交換の中心的役割も担い、希望・意向の把握に努めている。	担当職員が日頃から本人との信頼関係作りに努めている。意向や要望はミーティングやその時々話し合いで職員の共有を図り、可能な限りの実現を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談および他施設からの情報提供により、ご利用者の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ユニットミーティングにてご利用者の現状について話し合い、ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と話し合い、ご利用者のアセスメントを行い、毎月のミーティングで職員間でも意見交換をしながら、ケアプランを作成している。	入所時は週に1回くらい検討し、利用者の状態を見ながら見直しをしている。職員や家族の意見が反映された、現状に即した介護計画書が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の観察記録を用いて日々の暮らしの様子を記入し、また一ヶ月ごとの健康チェック表では食事量・水分量・服薬・排泄などを記載して、情報の共有とケアプランへの活用に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の意向を配慮し、ご家族に宿泊もして頂けるよう準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、民生委員や地域包括支援センター職員より、周辺情報に関する情報をいただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別で月2回の主治医による往診を実施している。法人内医療機関受診の場合は、職員が送迎し、付添っている。	母体が医療法人であり、24時間の対応が可能である。3名の医師が交代で毎日のように訪れており、健康管理や医療面での安心が提供されている。他科受診は家族の協力をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内病院から定期的に正看護師を配置しており、ご利用者の健康管理・医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご利用者の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、随時職員が見舞いへ伺いながら、情報交換し退院へ結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化に伴う対応の指針を作成し、説明を行っている。看取りについては、ご利用者ご家族が希望された上で、医療行為が常時必要な状態であれば、可能な限りの対応を実施している。	今までに事業所での看取りは行っていないが、母体医療機関と連携を図りながら、利用者の状態の変化に応じて家族と話し合い、可能な限りの対応に努めて、その思いに添いたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成しており、病院やリーダー、管理者へ報告、連絡、相談を徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に避難訓練を実施している。スプリンクラー設置、自動ドアおよび火災受信機と119通報装置の火報連動工事を施工済みである。	今夏の水害では道路を寸断された体験から学ぶ事も多く、事業所での備蓄を始めた。訓練の大切さを再認識し、今年度の避難訓練に臨みたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレについては、プライバシーの確保に努めている。また全職員が、ご利用者の人格を尊重した言葉かけを心掛けている。	職員は優しく語りかけ、人格を尊重した丁寧な対応がなされている。誘導はさりげなく、様々な場面で利用者を大切にされた支援が行われている事が窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に合わせた声かけ、傾聴を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしよう心掛けているが、入浴や行事など職員の働きかけで行っているものもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択など出来るだけ希望を伺うようにしているが、職員が決めている場面も多い。毎月理容師に来てもらい身だしなみを整えている。外出時は、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳などを手伝っていただきながら、一緒に食卓を囲み、楽しく食事出来るよう支援している。手伝える方にはお皿やお盆拭きなどをしていただいている。	試行錯誤の結果、現在は副菜は業者より調理済みのものが届いている。ご飯と汁ものを事業所で作り提供している。調理の時間を支援の時間にとの思いである。	栄養のバランスも良く、形態も配慮されているが、時々利用者の嗜好に合わせた手作り料理や外食の機会があればと思う。食べる楽しみで更に充実した生活提供を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行い、必要にご利用者には水分量のチェックも行っている。水分摂取の少ない方には飲んでいただけるよう声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、提携している歯科医による居宅療養管理指導を、希望されたご利用者へ実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意をさせないご利用者には、時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	自分で排泄の意思表示が出来る方がほとんどで、おしめ対応の方はいない。夜間にポータブルトイレを使用する方はいるが、昼間はその方の排泄パターンに応じて声かけし、トイレでの排泄に導いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各ご利用者の排便チェックを行って間隔を把握し、運動や水分摂取を促す。また、必要時にはヨーグルトやバナナなどを用いたり、医師に相談して緩下剤を処方して頂くなどの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回として職員側が入浴予定表を作成しているが、ご利用者の状態や希望を取り入れながら、回数の変更やタイミングをずらす等柔軟に対応している。	週に2、3回を目安に、午後入浴している。無理強いせず、本人の意向に添った対応をしている。入浴時間はゆとりをもって、利用者とのコミュニケーションの機会としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要なご利用者には、昼間でも短時間居室で横になっていただくなど、個々に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道、アコーディオン、ハーモニカ等のボランティアに来ていただいている。また、毎月いろいろな行事を開催し、ご利用者が楽しめる機会を増やすよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・夏祭り・ドライブ・喫茶など、年間を通してみんなで外出または外気に触れる機会作りに努めており、ご家族の参加も歓迎している。天気の良い日は、近所への散歩などを実施している。	年間行事として花見や秋に国分寺へ出かけている。家族にも案内して参加を呼びかけている。個別対応を心がけ、希望に応じて甘味処へ行ったりドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足に向けて、希望されるご利用者には、少額でも所持金を持っていただけるように対応するなど、家族と相談しながら支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて、電話をしたり手紙を出せるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物で季節感を取り入れている。また気候に応じた温度・湿度管理にも努めている。	床暖房が設置されており、室温への配慮も窺える。壁面には行事の写真や歌の歌詞がたくさん掲示されており、柔らかい照明の中で、利用者にとっての落ち着いた場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やホールにソファを置き、居心地のよい空間を作るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の心身状況に合わせて、ご家族に相談しながら行っている。	家族の写真を壁一面に貼っている人や自宅からソファを持ち込んでいる人、机を置いている人などと、それぞれの持ち味が活かされた居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置で、安全に歩行できるよう工夫している。またトイレに貼り紙をして場所が分かりやすくなるような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106092		
法人名	医療法人社団 三樹会		
事業所名	グループホームきびの里		
所在地	岡山市北区庭瀬149-1		
自己評価作成日	平成30年10月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106092-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成30年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療法人の特性を活かし、医療との連携を行っている。受診支援・医師の往診・正看護師の配置など、利用者の体調の変化に素早く対応出来る体制をとっている。また地域の町内会に加入して老人クラブや子ども会との交流を図っており、また地域にある短大・大学からも体験学習・ボランティアの受け入れなどを積極的に行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「信頼」という法人の理念を玄関や事務所に掲示し、毎日の朝礼時に職員で唱和を行い意識の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しており、溝掃除や公園の草取りなどに参加し、町内会総会などへも参加している。事業所の夏祭りへは近隣の方へ声をかけ、老人クラブや子ども会の方達も参加して下さっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にある短大・大学からの体験学習・ボランティアの受け入れなどを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者やご家族の代表にも出席して頂き、現在の取り組みを報告のほか、参加メンバーからいただいた意見や提案をホームで話し合い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員または地域包括支援センター職員に運営推進会議へ参加して頂き、介護サービス上での相談などにも応じて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者が外へ行きたい時には付添にて対応するよう努めている。身体拘束防止に関するマニュアルを用意し、事業所内で勉強会を実施して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関するマニュアルを用意し、事業所内で勉強会を実施して虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中には成年後見人制度を活用した方もおられ、必要な時には書類作成などにおいて、協力・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に時間を取り、丁寧に説明をしている。改訂については家族会や面会時に説明し、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族会を開催して意見交換を図っている。面会時にも意見や要望を伺い、それを基にしてホーム内で話し合い、反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より管理者やリーダーと職員との意見交換を行い、ミーティングや朝礼にて伝達し、必要時には申し送りノートへ記載して周知を図っている。また年2回、人事考課のフィードバック面接を行い職員の意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるように働きかけている。また、能力給を導入し、努力が処遇に反映できる制度となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を随時提示し、職員が選んで研修を受けている。法人内の勉強会にも参加しており、事業所内での勉強会は様々なテーマを挙げて、それぞれ担当を決めて取り組むよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議へ地域の同業者に参加して頂き、相互の情報交換を行っている。また、お互いの行事に参加させていただくなど、交流する機会づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご利用者の状態を理解し、より信頼関係を構築しやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に時間を取り、ゆっくり話を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時にじっくり話を聞き、ニーズを把握して、確認するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、得意な事を勧めつつ、時には一緒にいたり、職員の知らない事であれば教えて頂くことで、共に支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は何時でも自由とし、自室でもホールでもゆっくり話していただけるよう配慮している。面会時には最近のご様子を伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に愛用されていた物の持ち込みを勧めている。また、外出・外泊はいつでも歓迎している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・お茶・レクリエーション等、皆で楽しく過ごす時間を持つようにしている。また、職員が調整役となり利用者同士の関係が円滑になるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院により利用が終了した場合は、職員や他の利用者がお見舞いに行く等の対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員ごとに担当するご利用者を定めて、日々の関わりの中で傾聴を心掛けている。またご家族との意見交換の中心的役割も担い、希望・意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談および他施設からの情報提供により、ご利用者の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ユニットミーティングにてご利用者の現状について話し合い、ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と話し合い、ご利用者のアセスメントを行い、毎月のミーティングで職員間でも意見交換をしながら、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の観察記録を用いて日々の暮らしの様子を記入し、また一ヶ月ごとの健康チェック表では食事量・水分量・服薬・排泄などを記載して、情報の共有とケアプランへの活用に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の意向を配慮し、ご家族に宿泊もして頂けるよう準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、民生委員や地域包括支援センター職員より、周辺情報に関する情報をいただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別で月2回の主治医による往診を実施している。法人内医療機関受診の場合は、職員が送迎し、付添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内病院から定期的に正看護師を配置しており、ご利用者の健康管理・医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご利用者の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、随時職員が見舞いへ伺いながら、情報交換し退院へ結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化に伴う対応の指針を作成し、説明を行っている。看取りについては、ご利用者ご家族が希望された上で、医療行為が常時必要な状態でなければ、可能な限りの対応を実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成しており、病院やリーダー、管理者へ報告、連絡、相談を徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に避難訓練を実施している。スプリンクラー設置、自動ドアおよび火災受信機と119通報装置の火報連動工事を施工済みである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレについては、プライバシーの確保に努めている。また全職員が、ご利用者の人格を尊重した言葉かけを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に合わせた声かけ、傾聴を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしよう心掛けているが、入浴や行事など職員の働きかけで行っているものもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択など出来るだけ希望を伺うようにしているが、職員が決めている場面も多い。毎月理容師に来てもらい身だしなみを整えている。外出時は、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳などを手伝っていただきながら、一緒に食卓を囲み、楽しく食事出来るよう支援している。手伝える方にはお皿やお盆拭きなどをしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行い、必要にご利用者には水分量のチェックも行っている。水分摂取の少ない方には飲んでいただけるよう声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、提携している歯科医による居宅療養管理指導を、希望されたご利用者へ実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意をさせないご利用者には、時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各ご利用者の排便チェックを行って間隔を把握し、運動や水分摂取を促す。また、必要時にはヨーグルトやバナナなどを用いたり、医師に相談して緩下剤を処方して頂くなどの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回として職員側が入浴予定表を作成しているが、ご利用者の状態や希望を取り入れながら、回数の変更やタイミングをずらす等柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要なご利用者には、昼間でも短時間居室で横になっていただくなど、個々に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道、アコーディオン、ハーモニカ等のボランティアに来ていただいている。また、毎月いろいろな行事を開催し、ご利用者が楽しめる機会を増やすよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・夏祭り・ドライブ・喫茶など、年間を通してみんなで外出または外気に触れる機会作りに努めており、ご家族の参加も歓迎している。天気のいい日は、近所への散歩などを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足に向けて、希望されるご利用者には、少額でも所持金を持っていただけるように対応するなど、家族と相談しながら支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて、電話をしたり手紙を出せるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物で季節感を取り入れている。また気候に応じた温度・湿度管理にも努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やホールにソファを置き、居心地のよい空間を作るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の心身状況に合わせて、ご家族に相談しながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置で、安全に歩行できるよう工夫している。またトイレに貼り紙をして場所が分かりやすくなるような工夫をしている。		